特集「ユーザ指向の分散システム/インターネットの運用・管理」の編集にあたって

山之上 卓†

ネットワークを運用するにあたって最も大切なのは，ユーザの要求に答えることである．たとえば，ネットワークの品質に対するユーザの要求は確実に高度化しており，電子メール1つをとっても，以前は届かないことがあるとことを前提として使うよう利用者に教えていたが，現在は世界中どこにでも数秒で届くと信じているユーザがほとんどある．ネットワーク運用者は，日々の運用における最大限の努力もさることながら，インターネットを構築する技術の進歩にあわせ，管理・運用に関しても新たな技術を開発・導入してゆく必要がある．このようなユーザの要求を満たすための分散システムの安定的な運用・管理は従来より最も重要な項目の1つとして認識されており，本会においても分散システム/インターネット運用技術（DSM）研究会を中心に多くの研究が発表されている．しかし，最近のネットワークの高速化，利用者が扱うデータの大容量化，ネットワークセキュリティに対する脅威の高度化，分散システムを使った利用者教育や分散システムの管理者教育に対する要求の高度化などの状況を鑑みると，分散システム/インターネットの運用・管理を安全かつ安定的に行うには，これまで発表された研究だけでは十分とはいえず，見直しを迫られている時期にあるといえよう．

そうした状況の中，本特集は，分散システム/インターネットの運用・管理において，上記のような現状に即した新たな研究成果を掘り起こし，本分野の研究の推進と発展に寄与することを目的として企画された．

最終的に，本特集ではこれまでに DSM 研究会が企画した特集の中では最も多い 41 編の論文が投稿された．これらの投稿論文を 24 名からなる特集号編集委員会により，通常の論文査読と同じメタレビュア方式で査読を行った．その結果，最終的に 15 編の論文を採録することとなった．採択率としては 37%となり，予想を下回る結果となった．

以前から，新規性や有用性がある可能性は認められるものの，構成や議論の進め方に問題があるために不採録となった論文が多かった．本分野で発表される論文の質の向上を図り，より多くの研究が論文誌の論文として発表されるようになることを目指し，次回の投稿時に改善が行われるよう，本特集の1回目の査読では論文執筆指導的な査読を行っていただくよう，査読者にお願いすることにした．また，投稿者の負荷の軽減，事務手続きの簡素化などを実現するため編集作業時に試行運用が行われていた情報処理学会の PRMS（論文査読管理システム）を使って編集作業を行うことを試みた．

最後に本特集をゲストエディタ制により企画する機会をいただいた論文誌編集委員会と優れた論文を投稿していただいた著者の方々に感謝したい．また，ご多忙の中，多数の論文を短時間で査読していただいた上，指導的な査読にご協力いただいた査読者各位，ならびに多くの作業にご協力いただいた学会事務局に感謝する．

「再考 分散システム/インターネットの運用・管理」特集編集委員会

- 編集長
  山之上 卓（鹿児島大）

- 編集委員（五十音順）
  安東孝二（東京大），石橋勇人（大阪市立大），一井信吾（東京大），今泉貴史（千葉大），上原哲太郎（京都大），齊藤明紀（鳥取環境大），齊藤栴朗（会津大），敷田幹文（北陸先端科学技術大学院大），土屋 哲（富士通研究所），中村 眞（シャープ），萩原威志（新潟大），萩原洋一（東京農工大），長谷川明生（中京大），藤崎智宏（日本電信電話），藤村直美（九州大），前田香織（広島市立大），牧野晋（麗澤大），桝田秀夫（京都工芸繊維大），松浦敏雄（大阪市立大），宮地利雄（日本電気），山井成良（岡山大），吉田和幸（大分大），渡辺健次（佐賀大）

† 鹿児島大学学術情報基盤センター